

平成 29 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 30 年 4 月 7 日現在

研究課題名	18 世紀後半における自然科学とそれに対するロシア知識人達の理解—作品・書簡・公文書の調査と考察—	
申請者	氏名	所属機関・職
	金沢友緒	日本学術振興会 特別研究員 PD

研究成果の概要

本研究はロシアのエカチェリーナ 2 世治世下で多様な国家事業が展開された 18 世紀後半の動きに注目し、西欧諸国にみる科学技術の発展に対する作家や批評家の理解を、当時の彼らの作品・公文書等の文筆活動の分析を通して明らかにするものであり、北海道大学図書館及びスラブ・ユーラシア研究センターでは、そのための作業の一環として、18 世紀末から 19 世紀にかけての出版物を閲覧し、手掛かりを得た。

センターでは雑誌『ロシア語愛好者の友』（1783-1784）、「18 世紀ロシア出版物(18th century Russian publications)」の中の『心と理性のための子供の読書』（1785-）等、当初予定していた資料に加えて、18 世紀末にサンクト・ペテルブルグの芸術アカデミーより発表された学位論文、自然科学を主題とした児童向けの出版物等を閲覧することができた。

これらの資料をとおして、18 世紀後半、博物学や科学技術に関する多くの啓蒙書が西欧諸国の翻訳、借用であったことが確認された。

今後の作業・見通し

現段階では、知識層の公文書の調査がまだ十分とは言えないため、引き続き今後の課題としたい。なお、将来的な見通しとして、後の 19 世紀初頭においてアレクサンドル 1 世治世下にロシア自前の出版物が増加していく傾向を踏まえた上で、この 2 つの時代を比較することが求められる。その際に、世紀を跨いで国家事業に従事し、2 つの時代を体験することの出来たロシアの啓蒙家が、どのような視点で時代を捉える傾向にあったかに注目していくこととしたい。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

‘The Significance of the Balloon Motif in the Development of Modern Russian Culture’, British Association for Slavonic and East European Studies (BASEES), Fitzwilliam College, Cambridge, 13-15 April 2018.

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）